

一般社団法人 日本医療薬学会第 85 回医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第 85 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 山口 浩明

(山形大学医学部附属病院 教授・薬剤部長)

令和 4 年 8 月 27 日 (土) に WEB 開催 (Live 配信) にて、第 85 回医療薬学公開シンポジウムを開催した (主催：一般社団法人日本医療薬学会、共催：一般社団法人山形県薬剤師会、一般社団法人山形県病院薬剤師会)。本シンポジウムでは「薬剤師の専門性を発揮した医療連携強化に向けて」をテーマとし、特別講演 2 演題と山形県内で先進的な取り組みを実施している 5 施設の医療連携を情報共有するシンポジウムを企画、実施した。WEB 開催ということもあり、当初定員 300 名の予定で受付を開始したが、受付開始時より県内外の多くの薬剤師をはじめとする医療関係者に参加登録をいただき、当日の参加者は 308 名であった。

特別講演 1 では、一般社団法人山形県薬剤師会 会長 岡寄千賀子先生より、「地域医療連携での薬剤師の立ち位置」と題して、地域医療のなかで薬剤師が求められるもの、保険薬剤師と病院薬剤師のより強い連携の必要性についてご講演いただいた。特別講演 2 では、一般社団法人山形県病院薬剤師会 会長 羽太光範先生より、「薬剤師の職能を主体的に考えてみる」という講演タイトルにて、薬剤師業務の根底にある医療安全の確保について、また、安全確保に向けた自施設の ICT ツールの開発、活用事例についてご講演いただいた。シンポジウムは、山形大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長 志田敏宏先生、有限会社メディカほし薬局 代表 星利佳先生にオーガナイザー、座長をご担当いただいた。山形県立新庄病院薬剤部 小林由佳先生より、「地域におけるがん・緩和領域医療連携の課題」、株式会社みらい工房 代表取締役 遠藤祐喜先生より、「患者と家族が安心できる在宅医療を目指して」、あおば薬局 福島雅幸先生より、「地域で育む”食べる喜び”を求めて～北庄内食支援隊～」、おいのもり調剤薬局 加藤淳先生より、「やまがた医療連携吸入指導勉強会による医療連携～より有効な吸入療法実施への取り組み～」、日本海総合病院 薬剤部長 佐藤賢先生より、「地域医療における地域フォーミュラリの役割」についてそれぞれご講演いただいた。途中、通信トラブルによりシンポジストの順番が変更となる等、参加者にはご不便をおかけしましたが、現在の課題、薬剤師の介入による効果、各領域における連携の更なる必要性について情報共有されたとともに、参加者から多くの質問を受け、活発な議論が行われた。

最後に、本シンポジウム開催にあたり、ご講演いただいた先生方、座長をご担当いただいた先生方、運営スタッフ、日本医療薬学会事務局の方々に心より感謝申し上げます。